



→太櫛市街の道路を覆うガレキ（北檜山）



→久遠漁港での行方不明者の捜索（大成）



→転覆した漁船の引き揚げ（瀬棚）

平成5年7月12日(月)午後10時17分 北海道南西沖地震

失ったものの尊さ、差しのべられたあたたかい手のぬくもり、
そして町の復興のために、力を合わせることを学んだ、北海道南西沖地震。
真の安心・安全なまちづくりのためにも、
15年前のあの時、ともに生きるためにつないだ手を、いつまでも離さないように：

←横転したバス（瀬棚）



←平浜の救援活動（大成）



←崩落した道道小倉山・丹羽停車場線（北檜山）



■地震による被害

地震の震源は、北海道南西沖で、震源の深さは34km、マグニチュード7.8。震源域は奥尻島を含むと推測され、奥尻町は震度6の烈震と推定されます。道内

各地で震度5の強震から震度4を記録しました。地殻変動による地割れ、陥没、さらに液状化現象などにより、構造物の倒壊や田畑、道路などに大きな被害をもたらしました。

北海道南西沖地震の概要

発生日時	平成5年7月12日 午後10時17分
震央	北緯42度47分、東経139度12分
震源の深さ	34km
地震の規模	マグニチュード7.8 奥尻町震度6（震度5）
死者・行方不明者	230人（21人）
被害総額	約1,323億円（約220億円）
義援金	約185億円（約23億円）

（ ）内は、北檜山、瀬棚、大成の合計です。

特集 防災

↓大津波にのみ込まれた宮野（大成）



↑救援物資の配布（北檜山）

↑ガレキの処分（瀬棚）

↑液状化現象による農地の陥没（北檜山）

↑倒壊した家屋（瀬棚）

■津波による被害

この地震にともない、札幌管区気象台は22時22分に北海道の日本海沿岸に大津波警報を発表。震源に近い奥尻島では地震発生後間もなく津波が来襲し、檜山沿岸でも10分以内に来襲しました。津波の到達した高さは奥尻町藻内では31.7mにも達し、大成、瀬棚、北檜山の海岸にも大津波が襲いました。

■火災による被害

この地震にともない、奥尻町と大成において火災が発生しました。船舶火災2件、建物火災2件、車両火災2件の計6件が発生。奥尻町青苗地区で発生した建物火災が、死者2人、損害額12億円余りという大きな被害をもたらしました。

大成では、震度5の強震と、高さ5mを超える津波によって大きな被害を受けました。被害は町内全域にわたりました。人的被害は死者10人、重軽傷者41人。特に太田地区では、高さ10mを超える津波によって8人もの尊い命が奪われました。

瀬棚では、震度5の強震と、高さ5mを超える津波によって大きな被害を受けました。被害は町内全域にわたりました。

したが、特に三本杉地区が最も被害が大きく、死者6人、重軽傷者20人となりました。

北檜山の震度は6に極めて近い5と推測され、高さ5mを超える津波により、太櫓、新成地区で死者・行方不明者5人となりました。町内全域において家屋損傷、農地や道路の陥没など、奥尻に次ぐ被害となりました。

■教訓

この経験から住民の皆さんに対する一刻も早い情報伝達のため、非常時においても途切れることなく確実に通信できる防災行政無線の整備が緊急課題として取り上げられました。北檜山太櫓・新成地区では平成6年、大成では平成7年、瀬棚では平成8年、そして3町合併後の平成17年に北檜山区全域にも整備されました。しかし、整備することが目的ではありません。この防災行政無線から情報を受けた住民の皆さん一人ひとりが迅速な対応をとれるよう、日頃から非常時に備えることが重要です。そして、何よりも災害時において最も重要なのは人命救助です。そこで、次に避難と救命についてご紹介したいと思います。